

令和7(2025)年度 追手門学院大手前中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

グローバルな視点とキャリア発達を基盤に、生徒一人ひとりの主体性を尊重し、確かな進路実現を支援するとともに、公共心と社会的責任を自覚し実行できる力を備えた「時代の変革を担うリーダー」を育成する学校

2 中期的目標

追手門学院の教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する人材育成をすべての教育活動の根本とする。

- ①教育の個別最適化による生徒の第一志望進路実現 100%の達成
- ②グローバルコースにおける教育内容の確立
- ③安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

| 自己評価アンケートの結果と分析 [令和6年11月実施分] | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|
| <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の在校生の評価は、9項目において2021年度から2025年度の5年間で最も高い評価となった。・「8 問題見逃さず対応」が唯一満足度スコアで1.00ポイントを下回った。・特に、「20 アウトプット教育」で0.30ポイント、「10 校則遵守指導」で0.25ポイント、「21 よりよい友人関係」で0.21ポイント、昨年度から評価が上がった。・一方「11 学校行事」で0.60ポイント、「17 担任指導」で0.41ポイント、「18 学年運営」で0.34ポイント、昨年度から評価が低くなった。・満足度ランキングでは、1位「14 情報発信」、2位「24 事務室対応」、3位「16 デバイスの活用」となった。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none">・概ね過年度と同程度の評価となり、入学を進める比率は、昨年度同様8割超であった。・特に「21 よりよい友人関係」で0.38ポイント、「10 校則遵守指導」で0.25ポイント、「20 アウトプット教育」で0.16ポイント、昨年度から評価が高くなっている。・満足度が2.0を超えた項目は「2 安全な学校生活」「14 情報発信」「24 事務室対応」の3項目。・「4 学習習慣指導」「5 学習意欲を高める工夫」「9 教員相談対応」「10 校則遵守指導」「20 アウトプット教育」「21 よりよい友人関係」の6項目は、2021年度から2025年度の5年間で最も高い評価を受けている。・入学を勧める比率は肯定派が83.1%となり、昨年度より肯定派の比率が0.9ポイント増加。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の教員の自己評価は、4項目において過去5年間で最も高い評価となった。・12項目で昨年度よりも評価が上がっている。・「9 教員相談対応」「15 施設設備」は、過去5年間で最も低い評価となった。・「21 よりよい友人関係」で0.61ポイント、「22 本校満足」で0.43ポイント、「3 総合学園長所」で0.38ポイント、昨年度より評価が上がった。 | <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none">○毎年「学校評価アンケート」によって数値化され向上していることがよくわかるので、今後も継続して取り組んで欲しい。○偏差値などの数値のみではなく、目に見えない力(コンピテンシー)の向上にもさらに注力して欲しい。○探究力の向上は今後もぜひ大切にしてほしい。 <p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none">○入学時に個別最適化した「スパイラル教育」に共感したご家庭もあると思う。今後はぜひ生徒たちの学力に見合った指導を実践し、基礎学力の向上にも取り組んで欲しい。○5校の学校と姉妹校提携などを締結したことに期待している。(台湾2校、インドネシア、オーストラリア、フィンランド) <p>【生活】</p> <ul style="list-style-type: none">○校則があるのであれば、うやむやにせずしっかり守らせるべきだと思う。○生徒たちのニーズに合った校則の検討をぜひ進めて欲しい。○スマホの指導や声掛けに関して校内での指導のラインを統一して欲しい。 ⇒生徒の不信感につながらないよう全教員でしっかり取り組んでいく。 <p>【進路】</p> <ul style="list-style-type: none">○年々進学実績が伸びていることに驚いている。今後もぜひしっかりとサポートをお願いしたい。○追手門学院小学校からもっとたくさん入学されるようになって欲しい。 <p>【働き方】</p> <ul style="list-style-type: none">○良い人材を確保するためにもぜひ先生方が働きやすい職場作りを推進して欲しい。○教員の確保が難しくなっている。卒業生はもちろん、海外の人材を採用することも視野に入れてはどうか。○部活指導員については、卒業生を活用するというのもぜひ検討していただきたい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">○校舎のキャパシティは？新校舎の建設を真剣に議論していくべきではないか。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---|--|---|--|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">①教育の個別最適化による生徒の第一志望進路実現100%の達成</p> | <p>(1) 自習体制の確立</p> <p>ア 自習室の利用状況や自習時間に関するデータを収集・分析</p> <p>イ ICT教材の利用状況整理</p> | <p>(1)</p> <p>ア 学期ごとに自習室の利用状況や自習時間に関するデータを収集・分析し、学年毎やクラブ毎の利用状況や成績データを共有し、取組状況等を確認する。</p> <p>イ 利用状況等を踏まえ、ICT教材の入れ替え検討を実施し、学習費の枠内で次年度に使用するICT教材を決定する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア ・自習室の稼働率 ・学校評価アンケート(自学の項目) ・大学合格者数</p> <p>イ ・学校評価アンケート(ICT関連項目)</p> | <p>(1)</p> <p>ア ・2025年度自習室については、委託している外部業者を中心に年間を通して安定した運営を実施した。平日は50～60名程度の利用者が常にいる状態であり、テスト前には200名近くの生徒が利用することもあった。また、放課後講習も生徒たちにも非常に好評であり多くの生徒が利用している。</p> <p>イ ・個別最適化した授業実践の学習においてICT機器の利用に関して進めていると考える。ICT教材の選定に関しては、中学生、高校生ともに0Mでの自学自習に向けて最適なものを選定できた。運用方法について、各学年の学習推進部員を中心に検討してもらい、各学年に合わせた利用方法を探っている。</p> |
| | <p>(2) 個別最適化を支える教員力の向上</p> <p>ア 教員研修の開催</p> <p>イ 研修計画の再構築</p> <p>ウ 研修内容の共有</p> | <p>(2)</p> <p>ア 研修の開催やセミナーへの参加、関連書籍の閲読を全教員に課すことをベースとした研究成果の発表会を実施する。</p> <p>イ 必要な研修内容の洗い出しを行うとともに、次年度以降の研修計画を策定する。</p> <p>ウ 発表会や研修内容の動画での記録等を継続し、これらを格納するオンデマンド研修システムを確立・稼働させる。</p> | <p>(2)</p> <p>ア ・学内における教員研修会の実施回数 ・校外で行われている各種研修会への参加人数</p> <p>イ ・各研修会後に実施するリフレクション</p> <p>ウ ・学内における教員研修会の内容 ・教科会議での研修会の共有</p> | <p>(2)</p> <p>ア・イ 今年度も学習推進部主催で対話をベースとした教育力向上を目的とした研究授業を行い、研究協議を実施した。日常の中では授業について全教員で対話をする時間はなかなか捻出することができないので、この時間による成果は数値化できないが研究協議の時間そのものに意味があると感じている。今後も教員研修を通して一つでも多くのヒントが得られるように、各種研修やセミナーに参加して得た情報を発信することを継続していく。</p> <p>ウ 今年度は研修案内を教員に配信し、参加を希望する教員が自主的に研修に参加するという形式に加えて、個別に研修への参加を促すことを積極的に行った。今までは教科会議や分掌会議での共有を行うに留まっていたが、次年度は会議日(月1回程度)に共有を行う機会を持つ。</p> |

| | | | | |
|----------------------|------------------|---|---|--|
| ②グローバルコースにおける教育内容の確立 | ア アウトプット力の向上 | ア 海外でのアウトプット機会の質を高める手法を確立し、学内教員間での全体共有を図る。 | ア ・探究フェスタでの発表 ・海外研修での発表の機会 ・海外から学校視察の学校数 | ア ・年間通じて取り組んだ各学年の探究の取り組み、各行事における取り組み、高校GA/GS コースの日々の取り組みの成果を『探究フェスタ 2025』にて発表した。今年度も多くの保護者の方、教育関係者にもご来校いただき、盛大に実施することができ、生徒たちの『探究力・アウトプット力』の向上につながった。 ・学外への発信について、中学2年生の岡山探究旅行において真庭市の観光協会や市内の産業関係者の方々に対してプレゼンテーション、中学3年生の宮古島学習旅行において宮古島市役所職員に対して、高校2年生GS コースの国内探究旅行において久米島町長に対してのプレゼンテーションを行った。 ・高校2年生のSS・特進コースの3チームが「クエストカップ 2026 全国大会」に出場してプレゼンテーションを行い昨年度のグランプリをはじめ継続的な出場及び多数の賞を受賞できたことは、本校の教育の成果と感じている。 ・高1GA/GS コースで11月に実施した海外探究研修で、高雄市と台北市の学校と交流を行った。 ・海外との学校交流 マウントテバ中学(アメリカ)/留学生(メキシコ)/MDIS(シンガポール)/実践大学(台湾)/GIBS(インドネシア)/道明高級中学(台湾)/セントジョセフ高校(フランス)との交流を行った。 |
| | イ 留学プログラムの整備 | イ 独自の短期/中期/一年留学プログラムを継続し、海外志向のニーズに柔軟に応えられるように整備する。 | イ ・留学プログラムを使っている留学者数 ・海外プログラムの参加人数 | イ 留学に関しても昨年度の参加数10名から21名(長期12名/中期3名/短期6名)に増加している。本校の多様な進路選択の取り組みの成果であると考えている。 |
| | ウ 大学(海外含)との提携 | ウ 他大学との提携について、質・量ともにさらなる充実を目指す。 | ウ ・海外大学との交流及び進学実績 ・他大学との連携 | ウ ・実践大学とMOUを結んだ。今後の具体的な連携についてより協議していく。 ・次年度から兵庫医科大学と高大連携を締結し、交流のみならず、教育・研究活動に触れる機会を持てることとなった。 |

| | | | | |
|---------------------------|---|---|---|--|
| ③ 安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上 | <p>(1) 学校コンピテンシーの具現化</p> <p>ア 探究力の向上を全校的に展開する</p> <p>イ プロジェクト型教育の整備</p> <p>ウ 探究型授業の実践力向上</p> | <p>(1)</p> <p>ア GA/GS コースの取組内容を他のコースにも波及させ、各教科に年間1本以上のパフォーマンス課題を課すとともに各教科における探究型の学びをテーマとした報告会の開催をする。</p> <p>イ プロジェクト型の学びの有効性を検証するため、AI GROW の結果と模擬試験の結果のデータ分析を実施する。</p> <p>ウ 各教科における探究型授業の実践力向上のため、先進的な指導法を学ぶこと及びモデルとすべき授業の公開授業の開催する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア ・各教科のパフォーマンス課題の共有 ・GA/GS コースのパフォーマンスウィークの内容の共有 ・AI GROW の結果</p> <p>イ ・AI GROW の結果</p> <p>ウ ・探究フェスタの内容</p> | <p>(1)</p> <p>ア 学校の方針である個別型・協働型・プロジェクト型の学びが浸透しつつあると判断している。引き続き GA/GS コースを中心に、日頃からパフォーマンス課題を課すことを広める取り組みを推進する必要がある。今年度もパフォーマンスウィークにおいて、各教科でパフォーマンス課題を課し、目的に沿った成果をあげることができた。それに伴って、SS・特進コースにおいても通常の授業時にパフォーマンス課題を課してルーブリック評価を行うことで、コンピテンシーの伸長を測っている。</p> <p>イ 探究力を測定する数理探究アセスメントの結果を比較して探究する上で必要とされる4つの力(課題設定力、実験計画力、考察力、構想力)のすべてにおいて昨年度以上の伸長を達成した。</p> <p>ウ 各教科で教科主任主導の組織的な教育力(授業力)の向上を進め、また全体として、研究協議を軸とした研究授業の実施と追手門学院小学校教員との合同研修会を行い、教科と校種を越えた協議を行った。さまざまな取り組みを通してモデルとすべき授業の展開や、各教科による公開授業の開催に繋げていきたい。</p> |
| | <p>(2) 安心・安全な学校づくり</p> <p>ア リスクマネジメント・クライシスマネジメント体制の整備</p> <p>イ 新しい生徒指導・新しい生徒支援の在り方の検討、実践</p> | <p>(2)</p> <p>ア 学内及び学外関係機関との継続的な連携を行う。</p> <p>イ 新しい学びのあり方と生徒指導のあり方を通して検討、必要に応じた具体的なルールの見直しを行う。</p> | <p>(2)</p> <p>ア ・スクールロイヤーへの相談 ・教育庁私学課との連携 ・初等中等課との連携 ・部長主任会議での情報共有</p> <p>イ ・教員間・生徒間・生徒と教員間の対話 ・学外での研修会への参加回数</p> | <p>(2)</p> <p>ア 定期的なスクールロイヤー相談及び問題が生じる前の対策や初期対応前の相談を関係各所と共有した。また、職員会議と部長主任会議での情報共有の時間を定期的にもった</p> <p>イ 生徒指導部が中心となり生徒会とともにルールメイキングについて協議し、認識を深めることができた。校則検討委員会を実施し、現状の校則について見直しをはかる。服装検討委員会も実施し、制服の在り方についても確認し、より良い方向に進めるようにしている。</p> |